

□■養成所ニュースプラス第 17 号 2026□■

9 月 16 日、世界経済フォーラム（WEF）が今年の「ジェンダーギャップ指数」を公表しました。日本は女性首相が誕生したものの、政治・経済分野での格差状況は大きく変わらず、145 か国中 117 位でした。

今週の Plus Quiz は、「ソーシャルワークの理論と方法（専門）」から「総合的かつ包括的な支援の最初の対応」に関する問題です。この問題も正解したら終わりではなく、正解ではない選択肢のどこが誤りなのかも考えてください。

■Plus Quiz・・・・・・・・

【第 37 回問題 120】事例を読んで、A 町社会福祉協議会の B 職員（社会福祉士）の総合的かつ包括的支援に基づく次の記述のうち、最初の対応として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

〔事 例〕

A 町では、大規模な工業団地が開発された結果、海外から来た労働者とその家族が増加傾向にある。街中を歩く外国人家族の姿が日常的となった。そのような中、民生委員から、B に「慣れない文化に戸惑う外国籍家族の存在が顕著であることや、また一方で、在留外国人との交流を望んでいるものの、どのようにすればよいか困惑している地域住民の声が多く聞かれる」と情報提供があった。

1. 教育委員会に外国籍の子どもの生活状況の改善策を講じるよう要望する。
2. 在留外国人も加え、学校、自治会等がこの問題を共有化するための懇談の場を企画する。
3. 外国の文化や習慣について解説した日本人向けパンフレットを作成し、地域住民に配布する。
4. 企業の人事担当者に状況を説明し、問題解決を依頼する。
5. 外国籍住民と地域住民の交流の場を設け、広く参加を求める。

正答と解説は最後に記載してあります。

■Yoseijo Info・・・・・・・・

- ・(37 期生) 該当者に対して、修了見込証明書類一式をレターパックライトにて発送いたしました。

修了見込証明書は国家試験の受験申込に必要な重要書類となりますので、お名前等の表記に誤りがいないか確認し、届かない場合は当養成所までご連絡ください。

- ・(37 期生) 住所変更後、変更届を提出していない場合はご提出ください。
- ・(37-38 期生) 教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）の支給希望の方へ
申請書類一式は原則として、再発行はできませんので、お取り扱いにはご注意ください。

本養成所からの申請書類発行のため、「受給資格者証と公的身分証明書のコピーの提出」及び「レポートの提出」「スクーリングへの出席」「授業料の納入」が必須となります。

※(37 期生) 本養成所受講認定基準を満たす支給希望者には、10 月末日付けで、支給申請書類一式を発送いたします。

お手元への到着は 11 月上旬頃の予定です。今しばらくお待ちください。

※(38 期生) 本養成所受講認定基準を満たす支給希望者には、11 月 15 日付けで、支給申請書類一式を発送いたします。

お手元への到着は 11 月下旬頃の予定です。今しばらくお待ちください。

- ・受講の手引に“レポート作成・提出チェックリスト”があります。

レポートの作成・提出の前に必ず確認してください。

■Test Info・・・・・・・・

国家試験に関する情報をお届けします

- ・第 39 回社会福祉士国家試験は、令和 9 年 2 月 7 日（日）です。

詳しくはこちら→<https://www.sssc.or.jp/shakai/index.html>

- ・第 39 回国家試験の受験申込受付が始まりました。

今年度より、全ての受験者がインターネットでの受験申込になります。社会福祉振興・試験センターのホームページに、

インターネットによる受験申し込み前の準備及び申込方法の動画等、情報が公開されています。必ず確認のうえ、お早めに手続きを進めてください。

詳しくはこちら→<https://www.sssc.or.jp/>

- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟（以下、ソ教連）主催の全国統一模擬試験のご案内です。

詳しくはこちら→<https://www.spw-mosi.com/exam/>

※申し込み受付期間は終了していますが、ソ教連オンラインショップより申し込みが可能です。

詳しくは、本メルマガに添付しておりますチラシをご確認ください。←New

- ・養成所ニュースプラス第14号に、ソ教連国試対策のソゼミ新企画「みんなで一緒にソ教連模試 ONLINE」のご案内（チラシ）を添付しております。

詳しくはこちら→<https://jaswe.jp/moshi-online.html>

- ・本養成所主催、「受験対策講座」はwebにて開催中です。

2本目の「受験対策のポイントを中心とするガイダンス」が視聴可能となりました。是非ご活用ください。

受験対策ページへアクセスはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=5529

※パスワード等の案内は、養成所ニュースプラス第2号、第4号に添付しています。

■Plus Info

その他の情報をお届けします

- ・日本知的障害者福祉協会では様々な情報を発信しております。

詳しくはこちら→<http://www.aigo.or.jp/>

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

■Plus Column

【受験対策ミニ講座第13回／ソーシャルワークの理論と方法（専門）】

1 第37・38回の科目の傾向

7つの大項目のうち「ソーシャルワークにおける援助関係の形成」「ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発」「事例分析」「ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実践」からの出題が続いています。

事例問題は、第37回で7問、第38回で6問出題されていて、総合的かつ包括的支援や多職種連携の実践が多く問われています。ということは、この科目の基本的な知識だけでなく、他科目の知識も踏まえて事例にあたる必要があります。

事例問題の出題数が多い科目ですが、「事例問題かつ五肢択二問題」が第37回で5問、第38回で4問もありました。時間をかけ過ぎないように気を付けましょう。

2 国家試験の対策

事例問題は、実践を行っている皆さんにとって得点源になることでしょう。実際、過去問トライアルでも、半数以上の皆さんが事例問題6問中3問以上正解していました。

事例問題は、出題が繰り返されている分野や職種だけでなく、農福連携や多文化共生、DWATや避難所要支援者、終末期や認知症初期集中支援等新たな分野の事例も出題されています。一方、ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点やソーシャルワークの価値・倫理が求められることも多く、慌てずに選択肢をよく読むことで対応できます。

より正解率を上げるために、過去問や模擬試験、模擬問題で、多様な領域の複合的な課題にあたる必要があります。繰り返すことで、求められる視点が理解できるようになります。最後に中央法規「過去問解説集2026」から対策を紹介します。「繰り返しの学習は理解を定着させると同時に、関連事項とのつながりへの理解を促し、知識のネットワークをつくる

ことができる。」

【Plus Quiz・・・・・・正答と解説】

問題文からは、(1) B職員はA市社会福祉協議会の職員であること、(2)「総合的かつ包括的な支援に基づく」記述を選ぶこと、(3)「最初の対応」を選ぶことがわかります。(2)は、クライアントや地域課題の全体像を捉えたミクロ・メゾ・マクロに渡る多角的ななかかわりや働きかけを示していることを指し、(3)は、事例を読むと「コミュニティワーク」であることがわかり、その過程が「地域の情報収集」から始まることが理解できます。これらのポイントを意識して、選択肢にあたってみましょう。

1. ×選択肢は介入段階での手段です。この時点では、課題やニーズが明らかになっていません。また、住民主体での地域課題解決に繋がるとは言えず、総合的かつ包括的支援にはあたりません。
2. ○総合的かつ包括的支援では全体像を捉えた視点が必要です。外国籍住民や以前からの地域住民、分野を横断した関係機関が相互に連携して課題を共有するというこの選択肢が適切です。懇談の場を設けることで、地域課題の解決に向けた住民の主体的な関与を促します。
3. ×選択肢は介入段階での手段です。この時点では、課題やニーズが明らかになっていません。また、社会福祉士の一方的な情報提供であり、住民主体の関与を促す取り組みにはならず、協働の促進に繋がりません。
4. ×選択肢は介入段階での手段です。この時点では、課題やニーズが明らかになっていません。また、企業にのみ依頼する手段は、地域住民の関わりの視点がありません。
5. ×選択肢の交流の場の前に、外国籍住民や地域住民、関係機関が課題を共有しニーズを明らかにする必要があります。「最初の対応として」は不適当と言えます。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus